

よわむし太郎 (3年)

板書の工夫

あらかじめ、授業の中で重要な場面の挿絵や言葉を準備しておく。子どもたちは、「貼る」という行為だけでも注目する。特に挿絵を提示すると、それだけでその場面を想起できる。

大事な場面は、目を引くよう、チョークの色や囲みの形を変えたり、アイコンを書いたりして工夫する。

何の発問に対するまとめなのかがわかるよう、言葉で明示したり、囲んで区別したりする。

「振り返り」のアイコン。



「めあて」「振り返り」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号(アイコン)として提示できるものを用意するとよい。

教材名の提示。

子どもたちが特に大切だと意識した言葉は、傍線を引くなどして目立つようにする。

板書の流れ

- 1 「めあて」は初めに提示する。教科書のとびき「考えよう」を参考に、クラスの子どもたちに合った言葉にして示す。導入で「めあて」を活用し、「正しいと思ったことを、勇気を出して行うことの大切さについて考えよう」と投げかける。【3～4分】
- 2 教科書を範読して、教材の道徳的な問題場面を確認する。子どもたちの発言の中の言葉を、子どもの思いをゆがめないよう注意しながら、キーワードとして抜き出す。教材の中の重要な場面や、子どもたちが大切なことに気づいた場面は目立つようにし、全員で共有できるようにする。【10分】
- 3 授業では、「太郎」と「殿様」が対峙する場面で、役割演技を取り入れる。その中で、子どもたちから出る言葉を板書する。役割演技を見ている児童は、物語の中で太郎と殿様を見ていた子どもたちと同じように、太郎の行動によって、自分たちの心が変わっていくことを実感できる。正しいことを貫こうとする行動は、人を変えることができると気づかせる。【19分】
- 4 本時の振り返り。振り返りの前には、「めあて」を確認し、「今日は、このことを考えたんだよ」ということを子どもにしっかりと意識させる。7～8分でワークシートに記入させ、5分程度交流する。その際、机間指導をしながら、行動する心の源になる心について触れている児童を見つけ、指名するようにする。交流の中で出る子どもたちの発言は、その思いをゆがめないように、キーワードで板書する。振り返りの際は、必ず交流の時間を確保し、考えが深められるようにしたい。【12分】